

## ご挨拶

川瀬 正裕\*



このたびの社長就任にあたり、カヤバグループの舵取りを担ううえで、重要となる考え方を述べさせていただきます。

### 1. 成長戦略

当社は、油圧の原理を応用した振動抑制技術やパワー制御技術における世界トップクラスの企業として、更なる成長と社会の持続的発展に向け製品開発を推進してまいります。例えば、自動車や建設機械の電動化は実現策の一つであり、これに対応した技術開発への注力は非常に重要と考えております。

AC（オートモーティブコンポーネンツ）事業では、EV化、CASE<sup>注1)</sup>などの動向に適用すべく、ショックアブソーバの基本性能改良に加え、アクティブサスペンションシステムや次世代ハイブリッドサスペンションシステムの新規開発を進めております。

HC（ハイドロリックコンポーネンツ）事業では、建設機械の駆動機構における各コンポーネント（ポンプ、モータ、バルブ、シリンダ）を製品群として保有している強みを活かし、建設機械の遠隔操作や自動・無人化運転に適用すべく、センシングなどの電子制御を付加したシステム化への取り組みを進めております。

特装車両事業でも、国内最大シェアを誇るコンクリートミキサ車の技術を活かし脱炭素社会に貢献し得る、電動化・情報化技術を活用した新製品開発を進めてまいります。

更に新市場参入への取り組みとして、AC、HC、特装の保有技術を融合したキャンピングカーの開発を進めております。本開発に関しては、開発コンセプトや展示会出展の様子が本誌において紹介されております。

注1) Connected（コネクテッド）Autonomous（自動運転）Share & Services（カーシェアリングとサービス）Electric（電気自動車）の頭文字をとった造語。

### 2. 次世代に向けた生産革新

次世代に向けてモノづくりを進化させていく活動を、Ship'30（Self handing innovation plant 2030）と名付け、デジタル技術（DXやAI）を軸に「運搬」「在庫」「作業」の最小化を図り、自己完結が可能な無人化工場の具現化を進めてまいります。本活動のグローバル規模の展開により、グループにおける生産体制の最適化を図ってまいります。

### 3. 絶え間ない原価低減活動

コロナウイルス感染拡大から回復基調に入ったものの、原材料やエネルギー価格の高騰、半導体供給不足によるお客様における生産調整など、厳しい事業環境が続いています。このような社会背景を踏まえ、当社グループにおいても収益基盤の安定化を図るべく、グローバル規模の原価低減活動を進め、主要事業であるAC事業・HC事業・特装車両事業へのリソースの集中配分を進め、高収益体質への変革を図ります。

### 4. サステナビリティに関する活動

グローバル展開する企業が継続的な成長を成し得るためには、ESG経営の推進は欠かせないものです。当社においても、社長を委員長とし各本部長と各事業本部長から構成するサステナビリティ委員会を設定し、SDGsに向けた具体的な活動の紹介やカーボンニュートラルなどへの取り組みについて、今後、モノづくり/設計仕様の見直しを含めた啓発を促し、社会的要求に応えながら信頼醸成を図ります。

KYB株式会社は、本年10月1日に『カヤバ株式会社』が正式名称になりました。今後は、新社名でお呼び頂くとともに変わらぬご愛顧をお願いする次第でございます。

以上、社長就任にあたってのご挨拶をさせていただきましたが、グループ全員で改革を進め、世界中のお客様からの信頼獲得に向けて邁進していく所存でございます。

\*カヤバ株式会社 代表取締役社長執行役員兼COO